六月二十四日　消防演習の一せい放水訓練で、水の出ないポンプがいつもあった。ポンプが老朽していることは言いわけにならない。火事の現場へかけつけて、水が出ないでは申しわけない。常に点検整備しておくように、と講評のとき言ったものだ。老朽ポンプの更新を終わり、整備点検も遺漏なく、今日の演習はよくできた。それにしても、今年の火災は前年同期より二件多い九件。注意を望む。

六月二十五日　BSNテレビのカメラが、私の出勤を市役所の玄関で待構えていた。半袖、開襟シャツ、ノーネクタイ、自転車という、省エネルギーの見本のような姿をニュースワイドに出すためとのこと。国策によって、という殊勝な心がけでなく、これが便利で都合がいいだけのことでもとからこうしていたまでのことだが、それが国策にそうことになれば気持がいい。

六月二十六日　別掲記事にもある県農林水産部主催の村づくり研修会で発表された森下の自主的活動はいい。行政は万能でなく限界がある。まず小地域の住民が、みんなで考え、計画し、協力していい地域づくりにはげむことが自治の原点である。その上に市、県、国の行政がある。この関係をふまえてまず小地域社会の自治活動を推進しようというのが、近年重視されてきたコミュニティ活動である。

市長の日誌　石井新一

今日は六・二六梅雨前線豪雨一周年だというのに、阿賀野川の梅水逆流により上水道は非常措置だ。水は平常どおり出ているので市民は知らない。――というのは、市民に迷惑をかけないですむことが実証されたわけだ。敏感な報道関係者も気がついていないので、明朝記者会見で発表する、と夕刻新聞社、放送局に電話する。ただし、今年は冬山の雪が少なく、今後も大雨の予報がない。暑さが続くと水不足のおそれがある。節水に心がけてほしい。

七月二日　市議会議員今期最後の定例会を終わる。議員には年輩者が多く、任期中に死亡者の出ることが多いものだが、今期は揃って満期となるのはめでたい。健康第一、ということで勇退する議員も数人あり、同様の渡辺前助役も最後の懇談会に出席する。ごくろうさまでした。

七月三日　新発田、聖籠、豊浦、笹神の各市町村長とともに、福島潟、新発田川放水路の明年度予算増額計上につき県知事以下部課長、北陸地方建設局長に陳情する。県議会において土木部長が、用地買収は昭和六十年まで、と答弁しているが、それは最悪の場合と解釈し、それより数年早く用地買収を終わって着工してもらおう、というもの。余談だが、このときも半袖シャツ、ノーネクタイは私だけ。しかし、先月二十九日じん芥焼却場の陳情で厚生省へ行ったとき、部屋の入口に、上着なし、ノーネクタイで来てください、とはり紙してあった。儀式の場合のほかはこの服装でどこへ行ってもいいのではないか。

やあ!!おげんきですか

卓球女子で県下No.1

中野由紀子さん（上黒山）

毎日が練習とのことですが

「はい、現在、新発田商工高校の三年生です。一週間に一度ほど、練習は休みですが土曜も日曜もありません。朝八時ちょっと前の列車に乗ると、夜八時半にしか帰宅しません。でも、好きでやっているので苦にはなりません」

新発田商工高の卓球部員は多いのですか

「部員は、男子二十人、女子十三人でしょうか。そのうち、豊栄出身は私を含め三人です。監督の高山先生を中心にチームワークは良いです」

向うところ敵なし、と聞いていますが

「とんでもありません。運がいいだけです」

優勝回数は

「そうですね。一年の時、県一年生大会に優勝したのが最初で、この前の新潟県高等学校総合体育大会まで含めると十二回ぐらいでしょうか。小さい大会も入れてですが」

客間は賞状でびっしり。数えただけで七枚はありましたところで、今後はどうするのですか

▲8月の全国大会での活躍が期待される中野選手

「卓球の道を進んだら、という人もおりますが、姉ちゃんがお嫁に行ったんで、私がこの家を継ぐんです。それに今まで、私の希望ばかり述べ好きな卓球をやってこれたんで、ここらで、家族のことを考えなくては、と思っているんです。だから、上の学校へは進まず、近くに勤めて、趣味程度に卓球を続けていきたいと思います」

同席した祖母のアキさん（七八歳）は

「ほんね、いいっ子らんでね、由紀子という名は、おれがつけたんです。茨城のオバサンが、何でも上手な人で、その名が由紀子だったもんだから、まねしてね。今は食べた茶わんも洗わねえ子らろも学校さがったら、ためになるこっさ。いい婿どん心配してくんなせや。アッハッハハア学校の先生がね、自動車の運転免許も取らせないで、練習せ、練習せと言うんですと」

由紀子さん、高校生の非行化などが問題になっていますが

「スポーツでも打ちこんだらいいと思います。自分が好きだからかな」

食べものに好き嫌いなし。教科は体育と国語が好きで、苦手は家庭科とか。

全国大会を前に、下旬には一週間の合宿が待っています

〝がん張れ中野〟

土品出は語る　(15)

縄文式土器はその器形と文様によって次の六段階にわけています。

	年前	年前
草創期	(二万、000	九、000)
早　期	(九、000	六、000)
前　期	(六、000	五、000)
中　期	(五、000	四、000)
後　期	(四、000	三、000)
晩　期	(三、000	二、000)

草創期から早期にかけての土器が小瀬ケ沢、室谷や小戸の洞窟から発掘されました。五千年前の前期土器は黒川村の坪穴新発田市の山草荷、馬見坂、豊栄市の上黒山で発見されています。

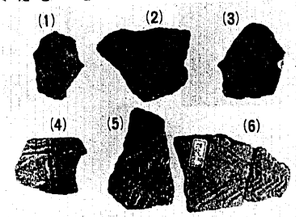
草創期から早期にかけての土器はほとんどが底のとがった尖底土器だったのです。どうして尖り底であったのか。それはろの灰の中に尖ったところを突きさして煮たきしたという説と、食を求めて転々として移動したので藤つるなどにしばって谷川から水をくんだり、物を入れて運ぶだという二つの説があります。

上黒山の五千年前土器

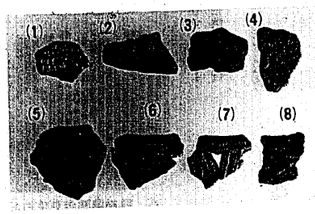
土器の表面につけた模様も小戸の土器のように細いひもを棒にまいてころがしてつけたより糸文、縄をまいてころがした押圧縄文、貝がらのふちでつけた貝がら文、爪であとをつけた爪形文などでした。

前期になりますと尖底が平底になりました。生活が安定し半永住の竪穴住居をつくり平にかためた床の上におく平底の土器が必要になったからです。模様をつける道具も細竹を割った半割管を発明しました。土器の上を引けば一度に二本の並行線ができます。その平行線の中をつきさすと爪形文ができます。又土版の上を強く引いてできたソウメン状の細い粘土ひもを器面に張りつけていわゆるソウメン文をつくりました。これ等の手法を組合せると数種の模様ができます。又縄文のつけ方が並行でなくくの字のように逆方行につける羽状縄文が生れました。器形も大きくなり、今まで深鉢形土器だけであったのが中頃からどんぶり型の浅鉢形土器もつくられました。又小形の把手をつけるように文化が進みました。

畠山佳二記



坪穴出土＝(1)把手文　(2)爪形文　(3)把手ソウメン文
(4)(5)爪形文　(6)羽状縄文



上黒山出土＝(1)爪形文
(2)(3)(4)羽状縄文
山草荷出土＝(5)羽状縄文
(6)(7)(8)爪形文

はーい

(4)養老橋

今回は市街地を流れる町浦川に架かる養老橋（ようろうばし）です。

小黒健次郎さん（町浦、五七歳）は

「私の記憶によれば、養老橋という名は、以前なかったような気がしますねえ。今の橋の前は、名前なんかなかったと思いますか。今の橋には確かに〝ようろうばし〟と刻まれていますね。いつごろかわかりませんが、当時の役場の人でもつけたのでしょうかねえ。この辺は、天王の市島様の土地だったんです。私の想像ですが、ご覧のとおり、ここには照善寺という寺があります。大門通りと呼んだんですが、お参りする人の多くがお年寄りだったところから養老と言ったんじゃないでしょうか」

今は、水害でもなければ、川の水があふれることもなく、いつもは家庭排水の町浦川となっていますが

「以前は新井郷川から米や稲を積んで、よく船が上ってきたもんです。私の家の隣りに米の蔵所がありましてね。番頭さんが棒を持って、米の出し入れをしていました。また、この川は、輸送のほかに野菜などをよく洗ったもんです。各家は川戸をもっていまして、朝や夕暮れ時など、洗い物する姿が、あちこちで見られました。ところが、伝染病が出ましてね、それ以降、衛生上、悪いということで、しなくなりました」

写真は町浦川にかかる養老橋

最後に

「ここよりちょっと上流に銅屋川の水門があり、そばにあった鈴木さんの家を水門の家と呼んだり、下流の病院の裏あたりは、家がなく、化けもんや川うそが出ると恐れられ、また、かもを飼っている家があり、かも家と呼んだりしました。いや、本当に懐かしいですねえ。昔の木橋の、この上で盆踊りもしたんですよ」

魚など採れたのですか

「ボラの子やハゼ、フナなど、網を張って採りました。秋には、ろうそくやランプを持って魚突きもしましたし、もち論、泳ぎもしました」